

□新設学科紹介□

医療福祉・マネジメント学科の創設
ー医療も福祉もマネジメントもわかる質の高い専門職の育成を目指してー

丸木 一成* 小林 雅彦**

Ⅰ. はじめに

平成21年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科が誕生した。平成9年の学部創設以来の「医療福祉学科」と「医療経営管理学科」を、時代を先取りする形で、統合・再編したものだ。本稿では、新学科の目的、特徴、教育内容などについて概説したい。

Ⅱ. 医療福祉・マネジメント学科新設の目的

21世紀の少子・超高齢社会を展望すると、保健医療サービスと福祉の総合的な知識、技術を有した専門職による支援が一層求められることは必定である。特に、団塊の世代が定年を迎え、今後は75歳以上の後期高齢者の急増は避けられない。後期高齢者は、身体機能が低下し、介護や生活支援サービスを必要とする場面が増える一方で、何らかの疾患を抱え、医療サービスを必要とする場面も多くなる。

これまで医療サービスと福祉サービスとは必ずしも連携が十分ではなく、個別にサービスが提供されることが多かったが、高齢者が真に必要なのは、身体の機能の低下と病気の双方をケアし、生活を支えるサービスである。

核家族化に伴う家族の「絆」意識の弱体化、行き過ぎた能力主義や格差社会の拡大等により、精神医学的な問題を抱えるものが増え、がん、心疾患、脳血管疾患等の有病率の増加と治療後のケアのニーズ拡大という状況下で、疾患とそれに伴う身体や精神の機能低下に対して、医療と福祉の両面より対応できる人材が、今後必要になってくるのは明らかである。

加えて、世界的な経済不況の影響で、医療福祉施設を取り巻く環境は厳しさを増すばかりである。これからの医療福祉の専門職は、提供する医療福祉サービスの質を下げることなく、限られた経営資源を効率的に活用する経営マインドが求められる。そのためには、経営の基礎、言い換えればマネジメントの基礎的知識は、医療福祉の専門職において必須といえる。

医療福祉学部は平成9年に開設されたが、医療福祉・マネジメント学科の前身の1つである「医療福祉学科」は、社会福祉士の受験資格取得を卒業要件とし、全国的にも最高水準の合格率を実現してきた。ソーシャルワーカーの養成教育を目指し、社会福祉士と精神保健福祉士または介護福祉士との複数資格取得を目指す学生も約半数を占め、卒業生の大半が、社会福祉施設や相談機関、医療施設の社会福祉専門職として就職する実績を上げてきた。

同じく学科の前身の1つである「医療経営管理学科」は、本学がわが国で初めての開設であり、医療機関や福祉施設などで医療経営管理を目指す学部教育の先駆的存在として、診療情報管理士の養成や医療事務職の養成に貢献をしてきた。医療の高度化で注目を集める診療情報管理士の受験では、全国的にトップクラスの合格率を維持し、卒業生の多くが、医療機関に就職している実績がある。

これら2つの学科の伝統を受け継ぎつつ、時代のニーズを先取りした形で誕生したのが、「医療福祉・マネジメント学科」である。当該学科は、医療と福祉の統合を目指し、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の育成、ならびに診療情報管理士、医療機関や医療

* 国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 教授(学部長・学科長)

** 国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 教授(副学科長)

関連ビジネスの管理など、医療と福祉分野のマネジメントを行えるような人材の養成を目指す学科である。保健医療の知識をもった福祉専門職教育、福祉の基礎知識をもった医療経営専門職教育、この 2 つの目標を統合化した表現として、「医療福祉・マネジメント学科」を名乗ることにした。

Ⅲ. 医療福祉・マネジメント学科の特徴

1. 新学科の教育方針

新学科の特徴を一言で表現すれば、「その人らしい生活を支える、医療も福祉もマネジメントも分かる、質の高い専門職の育成」を目指す学科といえる。福祉職を希望する学生には、医療や経営の基礎も学べる教育を、医療経営を希望する学生には福祉の基礎も学べる教育を行う。

1 年生から 4 年生まで学年ごとに少人数によるゼミナール教育を実施し、豊富な実習施設を活用した現場実践重視の教育を通じて、人の心がわかり、現場で活躍できる質の高い専門職の育成を目指す。この目標を実現するために、具体的には、以下の 3 つの教育方針を掲げた。

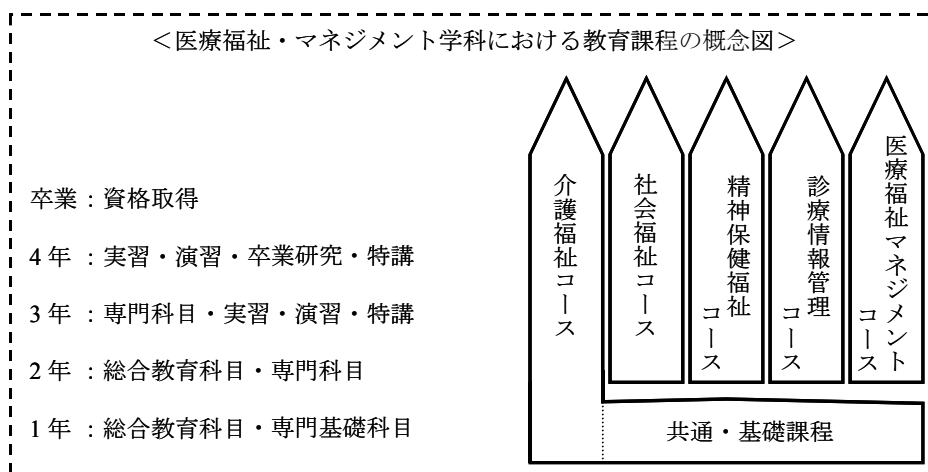
- ・教育方針 1 社会人として必要な基礎的な素養、コミュニケーション能力の習得
社会人として必要なマナーと常識、文章の読解・作成、情報処理、コミュニケーションなどの基礎的な能力を早期に身に着けることを目指す。
- ・教育方針 2 医療福祉分野で活躍するために必要な資格の取得
国家資格である「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」、認定資格である「診療情報管理士」の取得を、最重要目標とする。加えて、「診療報酬請求事務能力認定試験」「日商簿記検定」「経営学検定」などコースに応じて用意される各種試験も、重要資格と位置づける。
- ・教育方針 3 医療福祉分野における学問分野と現場に強い人材の育成
医療福祉の現場に従事する者としての意識を身につけ、さらなる知識と現場スキルの獲得を目指す。知

識としては、4 年間の学習の集大成として、卒業論文の作成を行う。現場スキルとしては、長期間にわたる実習を通じ経験値を高め、現場業務に強い人材の育成を行う。

2. 医療福祉・マネジメント学科の構成

医療、福祉、マネジメントの広い視野を有する専門職を育成するために、1 年次においては、福祉と保健医療の両分野の基礎的な知識を習得する授業を受け、2 年次には、以下に示す介護コースを除く 4 つのコースの中から、自分の希望するコースを選択し、専門的な能力を卒業までの間に身につける。1 年次に「コースを選べる」システムが、新学科の特徴のひとつといえる。

- ①社会福祉コースにおいては、社会福祉士の受験資格を取得させ、大学独自の実習教育も加えて、ソーシャルワーカーとして現場実践に強い専門職の養成を目指す。
- ②精神保健福祉コースにおいては、精神保健福祉士と社会福祉士の受験資格を取得させる。学生は、社会福祉士に向けての教育を通して、総合的な知識・実習教育を学び、加えて、4 年次には精神保健領域の専門科目を学び、両方の資格所得を目指す。
- ③介護福祉コースにおいては、4 年制の介護福祉士養成機関として、社会福祉士または精神保健福祉士と合わせた複数の資格取得を目指す。介護福祉士としての教育に加えて、社会福祉士または精神保健福祉士としての教育を行い、ソーシャルワークやケアマネジメントの視点を持って介護サービスを提供できる人材の養成を目指す。
- ④診療情報管理コースにおいては、医療機関における診療情報管理室、事務管理部門および医療安全管理室など、診療情報管理士としての能力が求められる職種で活躍できる専門職業人の養成を目指す。
- ⑤医療福祉マネジメントコースにおいては、医療機関や介護福祉施設等の経営に参画する能力を有する人材、医療福祉領域で事業展開する各種企業に就業する適性を備えた人材の養成を目指す。



3. 医療福祉・マネジメント学科の教育内容

1年次においては、医療福祉およびマネジメントに関する共通の基礎知識・技術・技能を修得し、2年次の専門コースに備える。各コース必修科目を全員が自由に選択でき、「医療概論」「社会福祉原論」など医療・福祉・マネジメントの入門編といえる講義を幅広く履修できる。1年生全員の必修科目として担任教員による少人数の「入門ゼミ」を開講、グループ討論、レポート提出などを通して、医療福祉職に欠かせない人間性とコミュニケーション能力を磨く。

2年次以降は各コースに分かれ、より高度な専門知識・技術・技能を修得する。社会福祉コースでは、「社会保障論」、「障害者福祉論」、「地域福祉論」、「保健医療制度論」等を修得する。精神保健福祉コースでは「精神保健福祉論」、「精神医学」、「精神保健学」、「精神保健福祉援助技術各論」等を修得する。介護福祉コースでは「生活支援技術」、「コミュニケーション技術」、「介護課程」、「障害の理解」等を修得する。診療情報管理コースでは「医療管理総論」、「医療情報学」、「国際疾病分類概論」、「臨床医学各論」等を修得する。医療福祉マネジメントコースでは「簿記論」、「医療マーケティング論」、「医療福祉経営分析論」、「病院原価計算概論」等を修得する。

この他、「卒業研究」や多数の演習・実習科目を設置し、実践に役立つ専門知識と専門技術を、実習を通じて具現化できるように教育内容は構成されている。例

えば、実習施設として、国際医療福祉大学グループでは、病院から福祉施設まで国内有数の豊富な実習施設が揃い、経験豊かな教員の指導により、生きた医療・福祉・マネジメントの知識を学ぶことができる。医療福祉の総合大学の特徴を生かした、他分野の専門職を目指す学生との「関連職種連携」の講義と実習を通して、時代が求める「チーム医療」の大切さを肌で学ぶことができるのも本学ならではの特徴といえる。こうした全国的にも例をみないカリキュラム体系の実践によって、「人の心がわかる質の高い専門職の育成」が実現できるものと確信している。

IV. 新学科の人材育成

新学科の人材育成については、旧来の学科実績を基礎として、統合後のシナジー効果を産ませることを期待するところである。

国家資格である「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」、認定資格である「診療情報管理士」の取得を最重要目標としているが、平成20年度の社会福祉士の合格率は66.7%と、全国平均29.1%をはるかに上回り、精神保健福祉士は3年連続100%で、ダブルライセンスの学生も20人を超える。「診療情報管理士」は、卒業生の資格取得率は82.9%と全国の認定大学の中でもトップクラスである。

就職率については、開学以来、両学科とも9割を超える実績で、平成20年度は、医療福祉学科が95.7%、

医療経営管理学科が 98.1%と、4 年制の文科系大学としては全国でも最高水準を誇る。医療福祉学科では、社会福祉関係施設や病院などの医療施設を中心に、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の資格を生かせる職場に 8 割以上の学生が就職している。医療経営管理学科では、約半数が医療機関、福祉施設に、4 割程度が医療関連企業を中心とする一般企業に、残りの 1 割程度が公務員や進学となっている。

新学科における卒後動向は大きな変化はなく、多くは、福祉や医療の現場の専門職として進路を選択すると思われる。具体的には、福祉系 3 コースの学生は、約半数が高齢者や障害、児童などの福祉施設職員、35%前後が医療・精神分野におけるソーシャルワーカーを目指し、経営系 2 コースの学生は、約半数が病院の診療情報管理士、事務、15%前後がヘルスケア関連、一般企業を目指すものと考えられる。その意味で、医療と福祉の両分野が理解できる人材の育成こそは、21 世紀の少子高齢社会における様々な人材育成の中でも、喫緊の課題であり、本学科の人材養成こそは、社会の要請に応え得るものとする。

なお、学科関連組織の一部として、大学院について概説すると、国際医療福祉大学大学院の医療経営管理分野において、平成 21 年度から論文作成を課さず、講義と演習とケーススタディを中心とした「医療経営戦略コース（通称 h-MBA コース）」が新設される。

当該コースでは、①経営管理プログラム（病院幹部養成、ケーススタディを中心としたカリキュラム）、②データ解析プログラム（企画・診療情報管理部門の強化、病院の診療情報や財務データを用いて解析・演習を中心とするカリキュラム）、③医薬・医材プログラム（製薬や医療関連ビジネス向け、ヘルスケア産業の動向やそれに関連する政策について、ゼミとデータ解析を中心とするカリキュラム）が開講される。従来からの論文作成指導を中心とする「医療福祉管理学コース（研究コース）」も開講される予定である。質の高い医療福祉の専門職の人材育成の観点から考え、今後の学部と大学院の交流は 1 つの課題であろう。